

研究通信	授業交流週間振り返り	能美市立寺井中学校
No.10	校内研修会振り返り	研究部
		2021年12月3日(金)

柱②：「わかる」「できた」を実感できる生徒主体の授業づくり

◆授業交流週間振り返り

1. 目的 教科の枠を超えて授業をお互いに参観し、授業改善につなげる。参観する際には「生徒指導の3機能」も意識し、互いに助言を行う。
2. 期間 11月1日(月)～11月12日(金) 【9日間】

本時のB基準の明確化、見通しを持たせる

自己決定「この時間はここを頑張ろう」

○本時のゴールや見通しを明確に提示することで生徒が意欲的に取り組んでいた。(多数)

○授業の流れが生徒に定着していてペア活動がスムーズに行われていた。(英語)

○初めに提示した今日の授業のキーワードが生徒の発言につながっていた。(社会)

○OS、A、B基準を示すだけでなく、単元マップに書き込めるスペースも用意されていた。生徒は何に向かえばよいかとても意識しやすそうだった。(英語)

●片付けの時間も書くだけでなく、タイマーを使って見えるようにしておけば「あと〇分で～まで進む」といった個人の見通しがもてやすくなるのではないかと思う。(美術)

●単元のスタートの時間であれば、単元ゴールの具体的な姿がイメージできるような提示があるとよい。「そこを目指していく」という意識を持つことで、「本時はその単元ゴールに向けてスタートの時間」という意識を持たせることができる。(国語)

課題設定の工夫

○資料から読み取れること、予測、今まで学んだことを生かして、生徒が楽しそうに授業を受けていた。(社会)

○個人のレベルや目的に応じて方法が指示されていたので、生徒がやりたくなる、苦手な生徒もやってみようと思えるものだった。(保体)

○個別最適な課題で、それぞれのペースに合わせ考え、表現し、個に応じた支援で、一人ひとりが大切にされ、学びが深めている様子が伺えた。(あけぼの)

○易から難への課題配置がよくできていて、個人思考の時間が十分確保されていた。(理科)

○1時間の中でスモールステップがあり、生徒の中に少しずつ「分かる」が増え、自信を持って発言やペア活動ができていた。(英語)

自己存在感「考えが認められた」

○グループの意見を黒板で見えていくときに、どれが正解かすぐに行くのではなく、「みなさん、理由をしっかりとつけて選んであるのが素晴らしいですね」の一言が、どの子も考えを認められたと感ずることができていたのではないかと感じる。(音楽)

○発言してくれた生徒の意見を聞き逃さなかった。(道徳)

○生徒のつぶやきを拾いながら授業に生かしている。(数学)

○生徒の発表後の教師の声かけ、生徒の雰囲気、拍手など自分の考えが認められている状況になっていた。(家庭)

○先生が生徒の発言を認める反応をしていることが生徒にも広がっていて、認め合える関係があるから自由発言も多く、雰囲気がとても良い。(英語)

○生徒のつぶやき、自由発言、問いかけ等対話を大切にしていた授業だった。(国語)

共感的人間関係「友達の考えが参考になった」

○教え合い活動を取り入れ、「わかった」「できた」の場面をつくり出し、個人の次への課題に目を向けさせる場面もあった。(理科)

○相談しやすい、答えやすい雰囲気の中で授業が進められていた。(数学)

○近くの生徒同士で考えを確認し合う場面を設定している。生徒の「ああ～そういうことか」という発言があった。

(数学)

○班の人と考え、つぶやきを共有しながら学習内容を深めていた。(理科)

●問題演習のとき、先生が一人で見ていたので、できた生徒(正解していた生徒)をアシスタントティーチャーとして活用すると良いのでは。(数学)

●隣近所と話し合いや確認は自然にできているペアとそうでないペアがいた。Bクラスでは難しい場合があると思った。(数学)

●生徒同士が英語で対話するより先生の説明の時間が多いように感じた。もう少しペアで活動する時間があってもよい。(英語)

定着を図る時間の確保

○自分なりのメモをとって自分の分かりやすいノートを作って、授業の内容を考えていた。(理科)

●演習の時間が確保されていたが、解答のときに、誰かが答えて他の生徒が聞くという場面があってもよかった。(数学)

自己存在感「頑張ったのでできるようになった」

○最後にまとめを行い、授業の最初に伝えたことを振り返り、おさえていた。(保体)

小学校、他教科とのつながり

○理科の比例関係を考えるときに数学の授業とのつながりを感じた。数学で力をつけないと理科につながらないこともあると感じた。(理科)

○小学校で習ったことのキーワードを出させ、中学校で学ぶこととの違いを確認していた。(数学)

ICTの活用

○ICTがうまく活用され、全員参加の授業だった。(道徳)

○はんこの掘り方、モデルをテレビに映して見せており分かりやすかった。(美術)

○ICT機器を活用し、イメージしやすい映像を用いて課題を考えさせていた。(保体)

○formsを効果的に用いて自分の考えを表現し発表する場面があった。(家庭)

○生徒が登場するトレーニング動画が効果的だった。視覚でイメージを持たせてポイントもシンプルで明確に伝えられていた。(体育)

○子どもを前に出させて活躍の場面を作っていること、黒板と電子黒板とを効果的に活用することで子どもが意欲的に学んでいた。(あけぼの)

●作業で迷う生徒が多いので実物投影機などを使うと理解しやすいのでは。(美術)

ワークシート・教具等の工夫、支援

○まとめやすい表を使って記録させており、課題からずれることがなかった。(理科)

○4cm、6cm、30℃に切った付箋を配る細やかな配慮が考える助けになっていた。(数学)

○区別しにくい薬品を使用したが、一つひとつの薬包紙に名前が書いてあったので分かりやすかった。(理科)

○課題にせまるためのワークシートも補助となる工夫がされていた。(国語)

●導入で話したことがワークシートに書いてあったので、配ってから読むことで理解が深まり、時短につながると思った。(英語)

教師の支援

●授業の特性上、どうしても1対1になることが多く手が止まってしまう生徒が出てしまう。「待ち」の生徒が多く、どうアドバイスするか課題。アドバイスをもらった生徒がまた真剣に取り組むのでうまく回すやり方があると良い。(美術)

その他

○先生の声かけが、互いの思いやりを促すもので苦手な生徒も安心感を持って参加できた。(保体)

○小テストを計画的かつ効率的に行っていて、生徒自身が「つけたい力」がよくわかる工夫がされていた。(理科)

◆校内研修会振り返り

【日時】 令和3年11月10日(水)

【内容】 ・研究授業 2-3 国語 授業者：田下先生
・授業協議会
・講義 講師：中京大学名誉教授 杉江 修治 氏

◇良かったところ

事前授業、研究授業、授業協議会から

- ・研究授業の展開を教科部会で検討できたこと。事前授業のあとに教科を越えて（校長先生も交えて）改善案を考えたこと。
- ・他の教科の授業を参観することで、自分の教科に活かせる手法や視点を学ぶ機会になった。
- ・田下先生の授業準備の丁寧さを目の当たりにできたこと。
- ・田下先生の授業を見たり整理会で他教科の先生の考えに触れたり杉江先生の講義を聞き、自分の課題を再認識できたこと。
- ・授業づくりの段階から関わることで、自分の授業の構想のしかたを見つめ直し、課題設定のしかたやグループ活動の設定のしかたなど、工夫すべきところを見いだせたこと。
- ・実際の生徒の反応を全職員で見ることができ、授業の検討が行えたこと。
- ・言葉だけでなく、視覚的に見てわかる工夫(スライドの活用)
- ・授業内容の組み立て(設計)、グループ活動のスムーズさ

杉江先生の講義から

- ・小さな活動でも目的意識をもたせることなど、改善のポイントを示してもらったこと。
- ・杉江先生を実際にお招きして、前回の校内研修の時よりも授業改善について詳しく知ることができた。
- ・主体的な活動が少し分かった。
- ・生徒に見通しをもたせることの大切さや生徒の成功体験を増やす支援やヒント、特に視覚的な支援が大切だと学びました。生徒をお客さんにしないで、主体的に楽しく学べる声掛けや細かい指示の工夫をすることが大切だとわかりました。
- ・生徒に学びの構えを作ることの大切さを改めて知れました。最近、「なぜこの学習をするのか」「なぜこの活動をするのか」を、生徒に説明することを意識しています。学びの構えのお話が、これらとつながり、とても有意義な時間でした。
- ・杉江先生から、学習活動のワザを聞くことができた。
- ・杉江先生の講義で授業の視点について改めて学べたこと
- ・対話型の授業を作るための、視覚的支援や、シンプルな授業構成について学べたところです。
- ・生徒がいかにして考えたい授業を、作っていかないといけないのかを考えさせられた。

その他

- ・教科部会での意見交流

◇今後に生かしたいこと

学習ステップごとの学びの構え

- ・生徒に、学習ステップ毎の学びの構えをきちんと持たせること。「言っているつもりだ」と意固地になりそうになるのですが、お話を伺っていると、言っても言っても生徒が変わらないのは、浸透させられるような伝え方を自分がかけていないからだなと思われました。
- ・観察、実験における結果の交流において、生徒に視点を提示。

- ・何のためにするのかの説明や声掛け、作業にならないで自分ごととして考えられる課題の工夫をこれからの授業に役立てていきたいと思った。
- ・生徒が自らやろうとする「学びの構え」を作ること。小さな活動のステップでも、目的を伝え、課題意識をもたせること。
- ・学びの構えを作ることを、これからも意識していきたいです。活動や学習の意義を理解することが、生徒が学習へ向かう第一歩だと改めて分かりました。
- ・学習活動に入る前に、それぞれの課題とねらいをはっきりと伝えること。
- ・行う活動に目的や意味をもたせること
- ・授業の初めに今日の内容を具体的に丁寧に話すように心がけようと思いました
- ・生徒の中の課題意識の重要性、学級全体で伸びていくこと・成長していくことを根本に授業を展開すること。

グループ活動、全体交流

- ・グループ交流のあり方や発表の仕方の工夫について
- ・発表ではなく、提言、伝える視点が大切。
- ・四人グループでの発表の仕方、教材（資料）などの提示の仕方など。
- ・学びの価値づけを行うこと、グループワークに全員が参加できるような仕掛け
- ・グループワークで活動に目的意識をもたせる点について、今後、自分なりのやり方が構築できるようにする。
- ・生徒同士の振り返りや生徒の発表について納得できないところに対して「なんで？」のつぶやきや、「わかりました」などの反応を返し、生徒同士での理解を深めるところ

教師の支援

- ・すべきことの視覚的支援、題材の学習の見通しを持てるようなワークシートや振り返りの準備、
- ・指示を減らして生徒が自主的に動けるようにする点。
- ・キーワードや型を使って自分の意見をまとめ発表に繋げたい
- ・モニター画面での資料の提示の仕方
- ・ワークシート（学びの足跡）の残し方や生徒の発言を事前に予測した板書の準備

単元構成

- ・単元の全体の構成や、本時の展開など、まず教員自身がしっかりと見通しを持ち、取り組むことの重要性。

課題設定

- ・生徒がやりたいと思う課題設定の仕方
- ・生徒自らが、やりがいもてる課題に取り組ませる。

3学期に向けて

～校内研修会や平井先生のお話をふまえて、生徒の目を輝かせるために全職員で取り組んでいくこと～

◇生徒の output を増やす

教師が話す量を減らし、生徒が自分の言葉で発信する場面を増やす。

教師からの一方通行で教えることからの脱却。そのためには事前の準備が重要。

◇少しハードルが高めの課題の設定

生徒の可能性を信じ、やりがいのある課題を設定する。

そこに向かっていくまでの学習ステップごとに課題を伝え、学びの構えをつくる。

◇ゴールの姿を具体的にイメージした課題の提示

単元の最後に何をするのか、どうなっていたらよいのか、生徒が具体的にイメージできるように提示する。

そこに向かっていく単元計画を作成し、生徒と共有する。